F-35

小規模観光地における地震災害からの復興・復旧に関する研究
－北但馬地震における城崎町復興計画－

A Study on the Reconstructions and Restorations from Earthquake Disasters in Small Tourist Destinations
－Kinosakicho Reconstructions Plan in the North Tajima Earthquake－

○築城秀信[1]，天野光一[2]，押田佳子[2]
*Hidenobu Tsuiki[1],Koichi Amano[2],Keiko Oshida[2]

Abstract: In This study, we intended for an earthquake disaster revival plan of Kinosakicho in the north Tajima earthquake.It is intended to grasp revival, the restoration measure in the small sightseeing spot we suffered serious damage at every earthquake occurrence. As for the suffering in the local Small Tourist, the local decline might be prolonged in particular to influence income decrease directly. In revival, the restoration of such a sightseeing spot, it is necessary to examine not only revival, the restoration in the conventional city planning but also the sightseeing plan that contained an image of security and the relief. Therefore, in this study, to grasp the conventional revival, restoration measure in the small sightseeing spot, we paid my attention to Kinosakicho, Kinosaki-gun, Hyogo that was a stricken area of the north Tajima earthquake.

１．はじめに

地震が多いわが国では，地震発生のたびに甚大な被害を受けてきた．特に地方の小規模観光地における被災は収入減に直接影響するため，地域の衰退が長期化する恐れがある．このような観光地の復興・復旧にあたっては，従来の都市計画における復興・復旧だけでなく，安全や安心のイメージを含有した観光計画についても検討する必要がある．

そこで本研究では，小規模観光地における従来の復興・復旧施策を把握するため，北但馬地震（1925 年発生）の被災地である兵庫県城崎郡城崎町（現豊岡市城崎町，以下城崎町）に着目し，復旧・復興の施策および経緯，施策と観光の動きより把握することを目的とする．

２．研究対象

1925年5月23日発生の北但馬地震の被災地として，城崎温泉で有名な兵庫県城崎郡城崎町を対象とする．

３．研究方法

本研究では，Table1 に示す文献を対象に読み取り調査を実施する．Table3 に示す神戸新聞の大正 14 年 5 月 26 日から大正 15 年 2 月 26 日の記事を対象とする．

Table1. Documents to use for an investigation

文献	発行元(発行年)
北但震災誌	兵庫県発行(大正15年)
城崎町史	城崎町史編算委員会
城崎物語	神戸新聞総合出版センター(2005年)
城崎小学校百年史	城崎小学校創立百周年記念事業委員会(昭和53年)
神戸新聞	神戸新聞社(T14.5.26～T15.2.26)

４．北但馬地震の概要

震源地を兵庫県北部円山川河口とする北但馬地震は，1925（大正 14）年 5 月 23 日午前 11 時 10 分頃発生し，地震の規模は当時の最大震度である震度 6 を記録した．各町の被害状況を Table 2 に示す．被害の特徴としては，地震による建物の倒壊，さらに火災が起こったことによって被害が拡大したことにある．Table2 より城崎町の被害における特徴として，発生時刻が昼食準備中であったため，温泉街で働く女性従業員の被害が全体の約 71%と高いこと，死者の約 20%が浴客であったことが挙げられる．

Table2.The damage situation caused by the earthquake

	城崎町
被災人口	3,400人＋浴客1,000人
死者数	男性:68人　女性:194人
	(浴客は男女合わせて60人)
焼失戸数	702戸数中548戸

５．城崎町における震災復興計画

城崎町の復興計画は，まず，兵庫県により区画整理や河川改修が計画された．続いて，震災当時の町長である西村佐兵衛により，「温泉」と「教育」を理念と謳った積極的な城崎温泉の復興構想が提案された．以下に詳細な経緯を示す．

（１）施策，観光

国レベルでの施策を見ていくと，地震発生から 3 日後には「震災に関する緊急勅令閣議に上義 5/26」，その後「震災地に対し減免税が決定 5/28」とあった．これに遅れをとりつつも城崎町は「復興の成案が出来て町民大会が開かれることが決定 6/3」を皮切りに，「城崎町復興部署定まる 6/14」，「区画整理案が出来上がっ

1：日大理工・院・交通 2：日大理工・教員・交通

た 7/21」,「震災地の復興には積極的に広路を造る方針を県土木課長の意向が示された 7/29」,「区画整理組合が組織された 9/28」と随時詳細な復興計画が進められていた.

（２）観光の復興

城崎町の主産業である観光は，震災によって多大な被害を受けた.「石に噛り付いても温泉郷の復興を決議 5/27」,「湯の街城崎の復興一の湯と御所湯の建築決まる岡田博士に設計を依頼 10/1」と大正 14 年は観光に関する記事が 2 件しかない. 観光の記事は T15 の「夏までに旅館を 50 軒建てる 1/1」,「新城崎の温泉場その他取り締まり方針略々決まる温泉場は平屋建て，他は二階建てを限度 1/16」,「鉄筋コンクリートの純日本建築に家族湯も新築する 2/26」, と新しい温泉街のビジョンが創られていった様子が捉えられた.

６．まとめ

本研究では，北但馬地震において，半年後より観光復興が唱えられたことを捉えた. 鉄筋コンクリートの建築を導入等，安全や安心をアピールするものであった. 一方スキー場を取り入れるなど他の観光資源も提示しており，観光復興の道のりが険しかったことが伺える.

参考文献

[1] 兵庫県：北但震災誌,大正 15 年発行

[2] 西村常之助：豊岡復興誌,昭和 11 年発行

[3] 神戸新聞但馬総局、神戸新聞総合出版センター：城崎物語【改訂版】,2005 年発行

[4]城崎小学校創立百周年記念事業委員会：城崎小学校百年史,昭和 53 年発行

[5]城崎町史編纂委員会：城崎町史,

[7]神戸新聞社：神戸新聞,大正 14 年 5 月 26 日～大正 15 年 2 月 26 日

Table3. Kobe Shinbun article

		復興	
		観光	施策、復興資金
T14	5月26日		震災に関する緊急勅令　本日閣議に上義 急速復興方策の立案が罹災民心安定の鍵
	5月27日	石に噛り付いても　温泉郷の復興を決議	全幅の力を復興に注ぐ　若槻内閣の言明 破壊から建設へ　復興気分
	5月28日		震災地に対し減免税
	5月29日		復興の町に聞く雄々しい此の響き千萬円もあれば復活だ
	5月31日		焦土の城崎町整理全く完了して到着する復興木材
	6月2日		復興へ急ぐ城豊両町 本社第三救護班がバラックを建設し夜は警戒の任を城崎の町民に感謝される
	6月3日		成案が出来た城崎復興の近く町民大会を
	6月11日		残在町区の異動
	6月14日		城崎町復興部署定まる
	6月16日		城崎、港西の両校舎22日竣工、直ちに授業を開始
	7月3日		住宅資金と産業復興 北但震災罹災者保険金支給の要求
	7月4日		震災罹災者へ金分配
	7月14日		賜金　感泣する罹災者
	7月16日		北但震災地の租税減免を力説す憲政会政務調査総会 復興だいや救済だと両派に分れ赤武者になって引っ張り合い 但馬震災義捐金分配問題
	7月21日		道路の幅員を拡張して町の中央二か所に広場を設ける 城崎町の区画整理案が出来上がった非常時を思っての計画
	7月26日		但馬震災地への融通資金800万円位
	7月27日		復興援助を惜しまぬ
	7月29日		震災地の復興には積極的に広路を造る方針県土木課長の意向 バラックの建築費は坪あたり22円旅館は60円が相場
	8月7日		御下賜金の分配について罹災者が当局の専断を鳴す
	8月19日		城崎地方罹災者にたいする火保
	8月24日		牛の歩み宣しくの北但震災復興資金
	9月20日		北但震災義捐金分配
	9月21日		北但震災地公共事業復興費決定
	9月28日		城崎町道路案決定先づ第一番に住宅区域の改革地主総会を開催して 区画整理組合を組織
	10月1日	湯の街城崎の復興一の湯と御所湯の本建築きまる 曼陀羅湯はバラックの仮建築に岡田博士に設計を依頼	
	10月3日		北但震災地復興費豫算案 北但震災地復興費　政府融通額支途
	10月4日		北但震災地復興費豫算
	10月11日		憲派議員の突っ張りも利かず復興豫算悉く原案可決
	12月4日		義捐金の残りを震災地に貰いたい
	12月20日		震災義捐金の分配見舞の意味でなく復興を主眼とした分配法
	12月24日		年内にお金が入る城崎町の義捐金分配
T15	1月1日	夏までに旅館を50軒建てる	城崎、豊岡を訪れて希望は踊る建設へ湯の街はバラックにも松飾り
	1月3日	男女混浴すべからずの禁制札しかし 復興はちかい中ですと意気込む町長さん	
	1月4日	城崎名物の湯女は皆散り散りになってしまった 出来上がったスキー場	
	1月5日	懐かしい故郷を	
	1月6日	平和な山国の町に　辛酸を物語る町長	
	1月7日		村の総動員を行う片っ端から家を建てえる
	1月8日	酒場や女中の敷が震災前よりウンと	
	1月10日		義捐金はその儘銀行へ預けいれて例年よりも気楽な正月をした 千鳥足のひとなど一人もいなかった城崎豊岡
	1月16日	新城崎の温泉場その他取り締まり方針略々決まる 温泉場は平屋建、他は二階建てを限度	
	2月1日	一の湯とまんだら湯とはこの6月までに成工する 鉄筋コンクリートの純日本建築に家族湯も新築する	
	2月26日		城崎町旅館復興資金